

信濃地名考

吉沢好謙著 1773年 江戸 須原屋市兵衛出版

(上卷)

神廟

延喜式載信濃國四十八座

大七座小四十一座・文德實錄曰嘉祥四年天下ノ諸神不レ論有位无位ヲ一共ニ叙ニ正六位上ニ云云

伊奈郡二座並小

大山田ノ神社

阿智ノ神社 (以下云云マデ割注) 舊

事紀云八意思兼神兒表春命信乃國阿智祝部等祖一云孝元天皇五年天

ノ八意ノ命神兒將ニ手力雄命一^{ミコ}天ニ降信濃國ニ一吾道ノ宮ニ鎮座ス手力雄命

戸隱山ニ遷座云云

外式

和世田ノ神社 (以下略)

(下卷)

高御倉山

名所集往々
信濃とす

長秋詠草

うこきなきたかみくら山祈おきつをさめむ御代は神のまに
俊成

夫木集云高御倉山

近江

大嘗會御屏風巳日退出音聲皇太后

俊成卿うこきなき高御くら山祈おきつと見へたり又栄

花物語卷十長和元年の冬

六十七代
三條院

大嘗會悠紀方いなつき哥

さかたの郡。御神楽歌。参入音聲たかみくら山。楽の破

の哥のしき地。楽の急の哥かな山。まかで音聲やす川。

とありて祭主輔親の哥六首見へたり高御倉山近江なる
事いよく明らか也夫高御座をもて山を稱する事故あ
り今或戸隠山是なりなどおしはかりの説あれば爰に記
す

附

●戸隠山奥ノ院手力雄命中院思兼命宝光院表春命とす

房舎凡五十三院奥院十二房中院并四房宝光院十七坊別當天台勸修院両界山顯光寺

領千石東鑑顯光寺天台山末云拾芥抄曰戸隠山影光寺古佛遊行ノ所云影宜作顯九頭龍ノ窟ハ地主神九頭龍權

現毎夜米三升舂炊レ之並以ニ梨子一為一神供ニ云中院比丘尼石より女人禁○太平記越

中黒水竜ノ宮に作る按に黒水ハ北方の神号歟「黒水龍ノ宮」ハ「黒水龍ノ宮」とルビ）村

上帝康保の比にや戸隠山釈ノ長明年廿五にして絶ニ言語

一誦ニ法華経一後積テ薪自焚失矣と元亨釈書に見へたり

サンセンギツリン

按ニ戸隠山ハ巉然屹立として東に秀川越中の列岳西に争

ひそひえ北に妙高山あり中に安曇郡を帯てはるかに眺ノシメ

ハ山ハ布シキたる碁石の如しされは山深して人跡まれにい

にしへ妖賊たてこもりて民の害をなしたる事知れたり

世に云源満仲戸隠山の鬼神を平け美濃國中川の山賊を

討源満仲為信濃守年代可追考村上円融花山三代奉仕轉任八國云○美乃の中川按神名式惠奈郡中川神社其地乎或ハ今の中津川なりともいふ又云平維茂

戸隠山の鬼を斬維茂平兼忠ノ子貞盛養子とす信乃守帯刀從五位上鎮守府將軍世に余五將軍と称す按円融院御宇天延年中為信濃守今越後國蒲原郡岩と

屋村平等寺に墳墓ありといへり

又云源頼義戸隠山の鬼を斬ると太平記に見へ

たり或田村丸鬼神退治云以上正説未詳

八面大王といひあだつ王といふ俗説なから必誣べからず按

延暦の録に陸奥の蝦夷阿黒麿見ゆ是越の蝦夷の魁将などにやあけるの山の名あればなり

●日本紀持統天皇五年八月遣使者祭二信濃國須波水内等

神云一云

カミノヘフタ

按水内等神ハ即戸隠神社なるへし天平年中神帳を勘

造とあれば也

夫木しなの路や風のはふりこ心せよしらゆふ花のにはふ神かき

家長朝臣

按神名式水内郡風間神社

カサマ
風間村社今
八幡と称

一説此哥風間神社の事

とす或風寒強き國なれば風神を祭事ともいへり未詳

中巻
諏方

條下にも
見へたり

(下巻補遺)

下巻補遺

●戸隠山の西南鬼無里村あり土倉村峠などいふ所を越

キナサ

て戸隠山を右に見て黒姫山に出越後に至る間道有

永禄年中
牧の嶋の

城を越後おさへんと
するはこれか為也

世に戸隠山を浦見の山などと云ハ此所也●

きなさの南に大塔といふ所あり今大道
峠に作 (略)

註 「信州デジくら」に画像あり。上巻の39コマ

目、下巻の4、5、6、33コマ目。「新編 信

濃史料叢書」第1巻にも翻刻がある。